

パソコン決裁 6 捺印ツール Standard Edition のパッケージ化されたインストーラの カスタマイズ

・ この文書の説明

この文書は、「パソコン決裁 6 捺印ツール Standard Edition」インストーラの実行時に引数として可能なオプション設定とその内容について説明されています。

この文書は、コマンドラインによるプログラムの実行についての知識があることを前提に記述されています。

・ 説明の中に表示されているオプション「/s」および「-a」について

[/s] オプション

パッケージ化されたインストールプログラムの展開状況を非表示にします。

※ [/s] オプションの前後には半角スペースを入れてください。

[-a] オプション

パッケージ化されたインストールプログラムをサイレントインストールするためのオプションです。(※必須)

※ [-a] オプションの後には半角スペースを入れてください。

・ 方法

「パソコン決裁 6 捺印ツール Standard Edition」のパッケージ化されたインストーラには次のようなオプションが利用でき、インストールをカスタマイズすることができます。

[/quiet] オプション

インストール時に、ユーザインタフェースの画面を表示しないでインストールを行います。

例 : SetupDstmp32.exe /s -a /quiet

ユーザインタフェースを表示しないですべて既定値でインストールを行います。

[/passive] オプション

インストール時に進捗状況のみを表示してインストールを行います。

例 : SetupDstmp32.exe /s -a /passive

インストールの進捗状況を表示してすべて既定値でインストールを行います。

[PIDKEY] オプション

インストール時にパッケージシリアル No とアクセス ID にて認証を行い製品版としてインストールを行います。 ※このオプションを設定せずに実行すると試用版としてインストールされます。

例 : SetupDstmp32.exe /s -a PIDKEY=<パッケージシリアル No>-<アクセス ID(5 桁)>-<アクセス ID(5 桁)>

パッケージシリアル No とアクセス ID にて認証を行い製品版としてインストールを行います。

[TARGETDIR] オプション

インストール時のインストール先を指定します。

例 : SetupDstmp32.exe /s -a TARGETDIR="X:\<FolderName>\"

インストール先を "X:\<FolderName>" に変更します。

[ALLUSERS] オプション

インストール時のメニューの追加先を指定します。(2 : すべてのユーザ)

例 : SetupDstmp32.exe /s -a ALLUSERS=2

メニューの追加先を「すべてのユーザ」に変更します。

[DEFAULTFILEPATH] オプション

インストールを行ったユーザが捺印ツールを起動した場合に初回に参照する捺印用印鑑データファイルの場所を指定します。※既に参照先が設定されている場合にはこのオプションは無効になります。

例 : SetupDstmp32.exe /s -a DEFAULTFILEPATH="\\<ServerName>\<ShareName>\STMPDAT.DSM"

捺印ツールが参照する捺印用印鑑データファイルの場所を "\\<ServerName>\<ShareName>\STMPDAT.DSM" に変更します。

[ALLUSERSDEFAULTFILEPATH] オプション

インストールを行ったコンピュータでユーザが捺印ツールを起動した場合に初回に参照する捺印用印鑑データファイルの場所を指定します。※既に参照先が設定されている場合にはこのオプションは無効されます。

例 : SetupDstmp32.exe /s -a ALLUSERSDEFAULTFILEPATH="\\<ServerName>\<ShareName>\STMPDAT.DSM"

捺印ツールが参照する捺印用印鑑データファイルの場所を "\\<ServerName>\<ShareName>\STMPDAT.DSM" に変更します。

[DELAYTRANSIMPRESSLOG] オプション (サービスリリース 2 インストーラからの適用)

インストールを行ったコンピュータで、捺印ツールが起動する捺印ログの遅延転送の既定値を指定します。"0" を指定した場合には無効が既定値となり、"1" を指定した場合には有効が既定値となります。

例 : SetupDstmp32.exe /s -a DELAYTRANSIMPRESSLOG =1

〔共通設定〕画面が表示された際に捺印ログの遅延転送の既定値に有効に変更します。

[DEFAULTLOGINTYPE] オプション (サービスリリース 2 インストーラからの適用)

インストールを行ったコンピュータで捺印ツールを起動した際に表示される〔ログイン機能の選択〕画面で表示される認証の種類を指定します。※既に認証の種類が設定されている場合にはこのオプションは無効されます。

例 : SetupDstmp32.exe /s -a DEFAULTLOGINTYPE=1

〔ログイン機能の選択〕画面が表示された際に既定で選択される認証の種類を Windows 認証に変更します。既定値は "0" (パソコン決裁認証) です。

[TRACELOGMODE] オプション（サービスリリース 2 インストーラからの適用）

インストールを行ったコンピュータで、捺印ツールで捺印操作が行われた場合に出力されるログを出力する機能の有効化を指定します。”0”を指定した場合にはログの出力機能が無効となり出力されません、”1”を指定した場合にはログの出力機能が有効となりログが出力されます。

例：SetupDstmp32.exe /s -a TRACELOGMODE =1

捺印時のトレースログ（捺印履歴ではありません）を有効に変更します。

出力されたログファイルは

[X:\Documents and Settings\<Windows ログインしているアカウント名>\Local Settings\Temp] フォルダ内に Ds****.log（***内にはランダムな英数字が入ります）に出力されます。

・関連情報

パソコン決裁 6 サービスリリース 6 以降では、事前に Microsoft .Net Framework 4 または Microsoft .Net Framework 4 Client Profile がインストールされている必要があります。

Microsoft .Net Framework 4 Client Profile は、「パソコン決裁 6 捺印ツール」の CD 内にあるインストーラを利用してインストールすることもできます。

Microsoft .Net Framework 4 Client Profile インストーラの場所

[パソコン決裁 6 捺印ツール CD 内] \files\DotNetFX40Client\dotNetFx40_Client_x86_x64.exe

Microsoft .Net Framework 4 Client Profile 日本語 Language Pack (x86/x64) インストーラの場所

[パソコン決裁 6 捺印ツール CD 内] \files\DotNetFX40Client\dotNetFx40_Client_x86_x64ja.exe

Microsoft .Net Framework 4 Client Profile インストーラのカスタマイズ

[/q] オプション

インストール時に、ユーザインタフェースの画面を表示しないでインストールを行います。

例

\DotNetFX40Client\dotNetFx40_Client_x86_x64.exe /q

\DotNetFX40Client\dotNetFx40LP_Client_x86_x64ja.exe /q

[/q] オプション

インストール時に進捗状況のみ表示し、すべて既定値でインストールを行います。

例

\DotNetFX40Client\dotNetFx40_Client_x86_x64.exe /passive

\DotNetFX40Client\dotNetFx40LP_Client_x86_x64ja.exe /passive

・影響を受けるソフトウェア

パソコン決裁 6 捺印ツール Standard Edition インストーラ